

## 「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)に対する意見聴取」の意見

わたしは東京都の多摩地域に住んでいます。多摩地域では水道水源に地下水を使っており、多摩地域全体では約3割が地下水です。わたしが住んでいる小平市は地下水が約2割ですが昭島市や羽村市は100%地下水で水道水を供給しています。わたしは、将来も地下水を水道水として飲み続けたいと思っています。ところが、東京都は多摩の地下水を水道水源として算入していません。国から正規の水源とするよう指導を受け2004年に認可された後もそのままです。ハッ場ダムができると、地下水が切り捨てられるのではないかと心配があります。逆に言えば、ハッ場ダムに参画するための理由として、地下水を使えないものとする必要があるのです。東京都は、かつて東京オリンピックの頃は湯水でたいへんなこともありましたが、今では多くの水源を抱え、水あまり状態にあります。にもかかわらず、さらに新たな水源が必要であると言わなければならない。その理由の一つが多摩の地下水であるというわけです。

今回の検証でおかしいと思う点はたくさんありますが、なかでも、東京をはじめハッ場ダムに参画している都県が出した水需要予測をそのままにして、非現実的な代替案を示し、その金額を比較していることは、とんでもないことだと思います。東京はまだ人口が増えています、水の需要は減っています。東京都が予測している1日最大配水量600万 $\text{m}^3$ は2003年に出した数字です。実際には、1992年には617万 $\text{m}^3$ でしたが、1993年以降着実に減っています。600万 $\text{m}^3$ という予測を出した2003年には506万 $\text{m}^3$ 、今では500万 $\text{m}^3$ を割り込み、2010年は490万 $\text{m}^3$ になりました。ちょうど1990年代中ごろから節水機器が普及し、人々の節水意識も広がっていきました。トイレや洗濯機など、今では節水タイプでないものは見かけなくなっています。このような状況を踏まえ、水需要予測をし直せば、確実に少ない水需要になります。

しかし、東京都は水需要予測の見直しを拒み続けています。2010年、わたしたちは「水需要予測の見直しを求める請願」を都議会に提出し、6月採択されました。これほど水需要の減少が顕著になっているのに2003年以来見直しをしていないこと、しかも予測の目標年が2013年と迫っていることなど、見直すべきであることは、だれの目にも明らかです。都議会の採択を受けて、その日のうちに、見直し実施を求める要請書を、都知事と水道局長宛に提出しました。ところが、議会の意思に反して、水道局はかたくなに水需要予測の見直しをしていません。これは、どう考えても、見直しをすれば予測値が大きく下がり、ハッ場ダムに参画する理由がなくなってしまうからにほかなりません。

そして、今年の1月、東京都水道局では水道水源開発施設整備事業の評価を行い、その結果および対応方針で「水道需要予測の基礎となる1日平均使用水量は、現時点では計画と実績との間に大きな乖離が生じていない状況にあることなどから、平成15年12月に実施した水道需要予測の値を計画値としている。」と述べています。しかし、ほんとうにそうでしょうか。実際の平均水使用量と予測との乖離は一般的な許容誤差範囲5%を大きく超

え、9%もの過大予測になっています。さらに、1日最大配水量の予測値を求めるために使う負荷率を、今の現実とかけ離れた数値を採用しているのが、予測値と実際の水需要の差は、どんどん開いてしまいます。都の予測では2010年も1日最大配水量600万 $\text{m}^3$ でしたが実際は490万 $\text{m}^3$ 。これがどうして妥当だと言えるのか、不思議でなりません。

不思議なことはほかにもあります。水道局は、これまで述べたように、かたくなに水需要予測の見直しを拒否し続けていますが、実はその一方で、2005年度～2009年度にかけて毎年、「水道需要予測に関する調査研究」を委託していました。その内容を見ると、2006年から2008年度の調査研究では水需要が減少する傾向を示していましたが、2009年度は増加すると報告されました。これは求め方が違っているためですが、都が採用したくなる結果を導き出そうとしていたのか、やり方や委託業者をかえて実施しています。いずれにしても、ひそかに予測の見直し計算を試していたことだけは確かです。でも、これらの研究も使われることなく、いまだに新たな予測は行われていません。早く現実に合う予測をすべきです。

「利水安全度」という言葉が使われて、「もしも水が足りなくなったらどうするんだ」「水源は多いに越したことはない」と、今でもダムを推進する人たちは考えているようです。下流の東京ではどんな気象状況でも水をジャブジャブ使い、そのために川の上流で山を切り開き、現地に暮らす人たちの暮らしを破壊し、巨大なコンクリートの塊を次々と造ってきました。最近では、ダムを造ってもその水の使い道がないという事態も起こっています。まださらにその愚を続けるのでしょうか。

今年起こった東日本大震災と原発事故は、これまでのわたしたちの生き方や都市のあり方、国のつくり方そのものを問い直すきっかけとなりました。東京という巨大都市の脆弱さも露呈しました。

ほんとうに見直さなければならないことがたくさんあります。震災復興にお金をまわすことはもちろんのこと、寿命を迎えている橋や下水道などの公共施設のメンテナンスや建て替えを進めなければなりません。河川では堤防の補強が急務です。人口減少社会を見ずえて、必要のないダム建設などしている余裕はありません。

今回の検証で、ダム案が有利とされましたが、まったく理解できません。ぜひもう一度見直しをしていただきたく、お願いいたします。